緑の風

MIDORI NO KAZE

4月号
vol.251
2021年3月31日

●編集
NPO法人
多摩住民自治研究所
日野市神明3-10-5
エスプリ日野103　〒191-0016
TEL：042-586-7651
FAX：042-514-8096

E-mail●tamajitiken1972@space.ocn.ne.jp
URL●http://www.tamaken.org/

『教室に注ぐ光』（気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館にて／2019年8月10日／撮影：編集部）

● 【特別寄稿】星野一人（社会教育推進全国協議会事務局長／多摩住民自治研究所理事）
社会教育研究全国集会～南三陸町からの発信

● 【多摩が動く】本田恒平（LGBTQ+ Bridge Network）
「一橋大学アウティング事件」について～事件とその後のとりくみを聞く（後編）

● 【財政研究会リポート　第64回学習会】堀内通成（多摩住民自治研究所理事）
小平市の新年度予算について

● 【書籍のご紹介】本田浩邦（獨協大学）
ディストピア小説が描く米保守政治の末路
マーガレット・アトウッド『侍女の物語』『誓願』、オマル・エル＝アッカド『アメリカン・ウォー』

シリーズ 多摩が動く

「一橋大学アウティング事件」について（後編）

事件とその後のとりくみを聞く

二〇二〇年一二月実施　聞き手●緑の風編集部

（LGBTQ+ Bridge Network）本田 恒平

『緑の風』vol・249（二〇二一年二月）に掲載された、「一橋大学アウティング事件について」のインタビュー後編になります。

事件の経緯と問題点について触れた前編から、後編では現代の多様な価値観の中で率直な言葉を交わしました。

社会に対する問題提起の形

編集部　私の年齢ですと、ゲイカルチャーといったものが世の中に存在する前提で生きてきているので、好ましくはないですが茶化すような事はあっても、他人を攻撃する意図で同性愛について発言する事はあまりないと感じて居たので、そのような認識の人がそれほど多く居る事にショックを受けます。

本田さん（以降敬称略）　例えばテレビのコントで「保毛尾田保毛尾」だとか、私が高校生の時はもうすでにはるな愛さんやマツコデラックスさんバンバンテレビに出ていて、それに対して日本ではまだLGBTQって記述は与えられておらず、過剰な表現でしたが、同性愛の人間がいるというという事が伝わりました。一方で「お前ホモなのか」といったような差別発言が出て来たのが一つあり、二次元的権力や三次元権力の影響を受けたり、もしくは昔のソドミー法のような時代よりはまだマシかもしれませんが、やっぱりLGBTQの人たちが社会に出ると同時にマイクロアグレッションやハラスメント受けるというのは、ある意味でセクシャリティというものが有名になっていくことによって社会問題化するという側面もあります。

ただ、差別される人は自分の人生ですから、俯瞰的に見れず、自分が今日生きるか死ぬかの次元で戦っているので一概に良かった悪かったとはいえませんが、一つ言えるのは前述のような表現が過激な形で社会に出てくるのは、何かしら社会に対して問題提起していると思うので、なんにせよ社会が一歩前に進んだと私としては肯定的に捉えています。

編集部　オタク文化に関しても少し似た思いを抱えていて、二〇年ほど前には周りに隠すものであり、社会に知られて居なかったものが、今は広く認知され、テレビ等でも肯定的に扱われています。社会が変わって行く過渡期にいるのでしょうか。

本田　そのように隠すような状況だったからこそ、「若いころにはゲイなんて居なかった」と言い出す人が居ますが、でも昔からLGBTQは居るんです。突然変異とかでは全くないので、昔のキリスト教社会では同性愛というのは過剰な性欲の表れのような捉え方されていましたが、今は徐々に考え方が変わってきています。

編集部　私が常々不思議なのは、LGBTQに対して攻撃する人達はなんでそんなに自分のセクシャリティに自信があるんだろうという点です。私は今異性愛者のシスジェンダー男性（生まれた性が男性で、性自認が男性）と自己定義していますが、自分が一生女性しか好きにならないと断言する事は絶対にできないと思います。

本田　そもそも自分を認識するというのは、自分のこれまでの経験から自分の人格に対して記述与えて行きます。例えば僕はこれまで女性のことが好きでしたから異性愛者であると認識しているわけですが、でも明日物凄く素敵な男性に出会って、もしかしたらその人に恋心を抱くかもしれません。そうしたら僕はゲイになってる可能性もあるし、バイセクシャル（両性愛者）やパンセクシャル（全性愛者）になっている可能性もあります。それはただ単にこれまで自分がそうだったというだけ、これからもそのような性的指向であるかは分からないわけです。それでも否定するのは自分が見て来たものしか信じないというような観念に近いのかと思っています。それ以外を認識できないし、否定する感覚ですね。そのような方からすると、マジョリティとして足元が揺るがされるような気持ちなのでしょうか。

私は今は異性愛者だけど、もう明日からは同性愛者になるかもしれない、ぐらいのつもりで生きているので、そういった感覚はないのかなと思ったりしますね。

編集部　それぞれの価値観で外見が魅力的な人が居たとして、性別が女性だから魅力的だなんて外見から判断はできませんよね。

自分の周りに差別はないのか、差別はないと思っていたのか

編集部　今までのお話を踏まえると、お互いの多様な価値観をどんどん世の中に出していくことが重要で、それに対して共感するかは横に置いて、そういうものが世の中に存在することを知ると一歩前に進めるという、「存在しなかったもの」から「存在するけど自分は関係ない」ものになり、「ひょっとして自分も関係あるかも」に進んでいくためには、やっぱり一足飛びには進めないと思います。まずは存在することを知ってもらうことしかできない。そうなると、「緑の風」ももちろん、メディアが発信していく人を増やしていくしかないのかな、と思います。

ただ同時に、表現する事を強制してはいけないとも思います。性的指向性自認について、私は性対象が女性で自己の性を男性だと認識していて、それを表現することにためらいは無いわけですが、私がマジョリティに属しているからであって、いつ自分に攻撃の矛先が向くかを考えると、なかなか発信できませんよね。ハラスメントから自分を守るために自分を偽り続けている人に、自分の性自認性的指向性の表現をどんどんしろっていうのも酷い話ですよね。一般論のようになってしまいますが、お互いに尊重していくためにはどのような協同ができるんでしょうか。

本田　まず仰って頂いたように、そもそもセクシャリティをカミングアウトする自由もあるし、しない自由もあるというが大前提だと思います。そしてカミングアウトした先の社会というのが、より良いものになっていくべきだと思います。それをどう構築していくかという問題ですね。

そこには当事者だけではなくて、他の人の理解も必要でその中で一橋大学の学生が非常に良いなと思った点が一つあります。先ほど話題に上がったように、LGBTの人間が周りにいなかったんだから、理解できないし知るよしもないといったような事を言いましたが、同じようになることを言う大学生も居ます。ただ、多くの学生はそこで考えが止まっているわけではなく、「じゃあなんで自分の

周りには居ないだろうか、もしくは居ないと思えていたんだろうか、もしかしたら自分がそう言えない環境を作っていたんじゃないか」という意見を授業のリアクションペーパーに書いてくれて、これは非常に良いなと思いました。

周囲に居ないということ自分の中で思い込みによる統計を作るのではなくて、居ないようにさせていた理由が自分にあるんじゃないかというところまで思考が及んで、じゃあ自分がどんな発言をしていたのかなっていう風なことを考えることが、より考えを先に進めますね。少なくとも、「何故自分はいないと思えていたんだろう」ということは考えていく必要があると思うんです。周囲に居ないわけがなくて、八%とか一〇%の人が（注：自分がLGBTに属すると認識している人だけでなく、Xジェンダーのように「わからない」「規定したくない」という層や、少なくともマジョリティではないと思っている人を含める）いると言うのは様々な調査で分かっていて、そう考えると左利きの人と同じくらい居るLGBTの人に対して、今自分がやってる事ってどうなんだと自問自答すると、きちんと考えれば、仕事終わりに、異性の接客があるような夜の街に、みんなで繰り出すみたいなことにはならないと思うんです。

だから自分の環境っていうのが、自分がそうさせていたのではないか、という自問自答ができれば、おのずと行動と意識が変わって行くと思うんです。それを自分の行動に落とし込む必要があって、そういう意識から理解をしていかないといけません。〝アライ〟（ally 同盟・支援者 LGBTの当事者ではない支援者を指す）って言われるの方が活動しやすい面も大きくあって、もちろん十分に理解できていないかもしれないし、細かいところまで分からないかもしれないけれど、目指している社会は当事者の人と一緒だと考えています。と言うのも、当事者の人は活動していく上で大きなリスクが伴うわけで、あの人はLGBTなのかな？と思われると実際にその人が当事者だった場合それがアウティングなってしまいかねません。僕が活動する中でゲイ野郎だと言われても、事実異なるので否定して終わりですが、当事者からしたらそれでは済まないので。

明日の社会のマイノリティへ

本田　そう考えるとやっぱり自問自答を繰り返して社会を変えていくという手順が必要で、ドイツの牧師であるマルティン・ニーメラーの

ナチスが最初共産主義者を攻撃したとき、
私は声をあげなかった 私は共産主義者ではなかったから
社会民主主義者が牢獄に入れられたとき、
私は声をあげなかった 私は社会民主主義者ではなかったから
彼らが労働組合員たちを攻撃したとき、
私は声をあげなかった 私は労働組合員ではなかったから
そして、彼らが私を攻撃したとき 私のために声をあげる者は、誰一人残っていなかった

本田　という言葉がありますが、今はマジョリティかもしれないけれど、明日わが身の事になるかもしれない、さっき言ったようにゲイになる可能性もあるし、そんなことは分かりませんよね、それこそ人知の及ぶところではない。そういった明日自分に不利益になるかもしれない社会を変えていく責務というのは社会の当事者である国民にあると思うんです。

そういった自分と自分の認識に対する客観的な認知ができていれば、その行動もおのずと変わっていくし、自分に何ができるかなと結びついていく気がするんです。アライである事にあぐらをかいていると危ないので、積極的に学んでいって、自問自答をして、どういった社会を目指していくのかを考えます。アライの活動をしていても、当事者であっても、間違った方向にいく事はあります。当事者だったらみんな同じ方向向いてるかというとそうではなく、レズビアンの人とゲイの人は全く違うコミュニティに居るし、究極的なこと言うとそれぞれの個人で、困難を抱えている人もいればそうではない人もいるし、そういった現状の中で最大の利益・幸福というものはどこなのか、考えて行くべきなのかなと思いますね。

Several Things You Need to Keep on Your Mind for Diversity

LGBTQ+ Bridge Network作成資料　人のセクシュアリティを知った時、あなたならどう行動する？？

編集部　この話は今世の中にある差別にも当てはまる話だと思って。何故自分の周りにコロナ患者がいないと思えるんだろうか、何故自分の周りに他の国籍の人が居ないと思えるんだろうか、そんな事を自問自答して、自分の振る舞いがそういった人達に何か嫌な気持ちを、あるいは言い出しにくい空気を与えていないだろうか、自分以外が世の中に居るという事を常に考えながら発言をするという考えは、この一橋大学の学生の考え方が勉強になりました、

本田　例えば国籍に対する差別に関しては、生まれた国が後天的に変わる事は中々ありませんが、万人に関係するSOGIに対してだったり、可変的であるセクシャリティついて考えると、今マジョリティに立っているけれどマイノリティになる可能性もあり、そうなった時の社会というものをどれだけ想像できるかという事が 一人一人求められてるのかなぁなんて思うし、大学生が一番そういった多様性に近く接している気もするので、他の当事者と連携しながら知見を広げて理解を深めていくのが、事件を経験した一橋大学だからこそやっていくべき事なんじゃないかと思います。

大学という多様な背景の人がいる場所で、色んな価値観が出会って学びに繋がって行くなかで、自分の周りにはどんな人が居るんだろう、そしてどんな人が居ないと思っていたんだろうという事について、ぜひ考えてほしいですね。本日はどうもありがとうございました。

編集部　ありがとうございました。
（LGBTQ+ Bridge Networkの活動は、左記URLよりご覧ください
https://hitupride.wixsite.com/lgbtqbridgenet）